

## 第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 川崎市立西生田小学校 佐瀬 洋子

1. 日時・場所 平成29年11月15日(水) 5校時 13:30～ 西生田小学校図書館(図書室)
2. 単元名 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう
- 教材名 「百年後のふるさとを守る」 河田 恵昭 光村図書  
伝記の本、人物事典

### 3. 単元の目標

◎目的に応じ、内容や要旨をとらえながら複数の文章や本を読み、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

#### 指導事項

- ・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

「C読むこと イ」

#### 言語活動

- ・伝記を読み、自分の生き方について考えること。(ア)

### 4. 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝記の本を選び、人物の生き方に興味をもって読んでいる。</li> <li>・本を読んで、自分の生き方に活かすという目的をもって「情報カード」に書く活動に取り組んでいる。</li> <li>・自分の生き方に取り入れたい所を選び、どのような時に活かしていきたいか考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。(1)イ</li> <li>・文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読みだりすること。(1)ウ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。(1)イ(キ)</li> </ul>

### 5. 単元と児童

#### (1) 単元について

本単元「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」は、人物について書かれた伝記を読み、その足跡の中から、人物の生き方や考え方を、自分と関連させながら読む単元である。

教科書教材「百年後のふるさとを守る」は、浜口儀兵衛の「伝記」の部分と、東日本大震災にて、「儀兵衛の行動にも見られた自助と共助の意識がとても役立った」部分とからなっている。教材の扉にあるように、人物について書かれた伝記を紹介するのみならず、人物の功績が生かされた技術や人物の考え方にせまり、自分と関連させながら読んだことを活かすことを願っている教材である。

本校の学校図書館にある伝記の本は、教科書教材のように人物の伝記部分と人物から関連する技術や現代への生かし方の部分を両方書かれている本ではない。よって、書架の分類番号2類のうち、伝記に関する本(伝記と人物事典)を利用し、現代への生かし方としては、技術面ではなく努力や意欲、博愛の精神など心情面を扱うという学習とする。

本単元では、まず教科書教材の人物に焦点をあて、浜口儀兵衛の生き方とその後の防災への取り組みとを関連させながら読む。つまり、東日本大震災でも活かされた自助と共助の精神を読み、人物の

生き方が現在に活着ている部分を読み取る。このことにより、「事実と感想、意見などの関係を押さえながら読む」力をつける。そして、各自が読んだ伝記の本の人物に迫り、自分の生き方に取り入れたい偉人の考え方や生き方を理由と共に選ぶ活動を行う。伝記の人物の行動や考え方から、自分の人生に取り入れたい言葉を選び、その背景や活かし方を考えて表す力を養いたい。さらに、活かしたい言葉を暗唱することで児童のこれからの人生の中で活かすために選んだ言葉が心の糧となることを願っている。

## (2) 児童について

全体的に大人しく、課題に対して真面目に取り組む児童が多い。自分の意見をもつことや思いを書くことに苦手意識を感じている児童も少なからずいる。しかし、今まで総合的な学習の時間や他の単元の「情報カード」を利用した際には、引用やその感想を少しずつ書けるようになった。

学校図書館の本を借りる冊数は全校の中でも多く、4月から10月までの7か月間に1214冊借りていた。一人当たり月平均6冊のペースで借りているといえる。週2回ある朝の読書タイムでは、家から持ってきた本を読んでいる児童もいるので、冊数からすると普段から読書をする習慣がついている児童が多い。しかし、普段借りている本をみると、学習漫画や軽い内容の文庫本が多い。また、借りている本の数や読書量に個人差がある。

伝記の本は、主に学習漫画を通して読んだことがある児童が約三分の二いた。エジソンやニュートン、アンネフランクの名前が挙がった。また、好きな歴史上の人物として、戦国武将の名をあげる児童が数名いる。前期に「歴史係」の児童は、豊臣秀吉、真田幸村、坂本龍馬、徳川家康についての本を学校図書館で借りて読み、人物紹介を新聞に書いて掲示した。また、習い事の関係からか、好きな野球選手やサッカー選手などの名前も話の中にでることもある。

そこで、本単元を通して、全ての児童が伝記の本を読むことを体験し、伝記の本に親しむとともに、そこに書かれている人物の言葉を通して、自分の生き方に活かそうとすることをめざしたい。

## 6. 研究テーマに迫るための手立て

研究テーマ

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

—情報活用能力を育てる授業デザイン—

### 研究テーマとのかかわり

今年度も情報教育研究会では、「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」をテーマに、子どもたちの情報活用能力を育てるための授業デザインの研究を進めてきた。本単元では、子どもたちが伝記を通して読み取ったことをもとに、自らの生き方について考えていく。その際に、「情報カード」を活用することで、伝記からの情報を収集整理し、表現していく力を育てていきたいと考えている。また、完成したカードの交流を通して、子どもたち自身の読書の幅が広がったり、様々な生き方を知って自らの考えが深まったりしていくことで子どもたちの豊かな心の育成にもつながっていくと考えている。

情報教育研究会では、本単元で取り扱う「情報カード」が、様々な教科の様々な単元で活用できる汎用性のある手立て・ツールであると考えている。本単元での「情報カード」の活用を通して身に付けた情報活用能力が、社会科や理科、総合的な学習の時間など教科を越えて生きていく力になると考えている。

(1) 情報活用能力を育てるために

① 「情報カード」を使つての読み取り

ここでいう「情報カード」とは、『藤田式「調べる学習」指導法』（藤田利江著 子どもの未来社）を参考にし、「そのままカード」「まとめカード」「感想カード」などを中心として、教科や総合的な学習の時間に児童一人一人が資料を効果的に読み取るために使用するカードの総称とする。書きためたり、分類したり、取捨選択したりして画用紙に貼って用いることにより、児童の思考を助けることができる。

読書中は、本に付箋を貼りながら読み進める。自分の生き方や生活に活かせる所を後から振りかえるためである。読み終わると、付箋の箇所をふり返り、付箋の数を調整しながら、心に響いた人物の考えを「そのままカード」に書き写す。（下図参照；例えば①②③④の順に書いていく）

③「感想カード」  
要約した文の感想を書く。（本單元では、ここが生き方を考える所）  
どうして引用したのか、どのような場面で活かしたいのか書く。

①「そのままカード」  
自分の生き方や生活に活かせるような文を引用する。（偉人の年表を抜粋してもよい）

②「まとめカード」  
引用した文を自分の言葉で要約する。（箇条書きでよい）  
例；何度も言葉を選び、納得する本を作った。

④「言葉カード」  
感想を凝縮させた言葉を書く。  
なるべく短く、覚えられる長さで。

各カードは色分けしておき、例えば「そのままカード」（水色）→「まとめカード」（緑色）→「感想カード」（黄色）→「言葉カード」（赤色）のように色を決めておいて児童が一目で分かるようにしておく。

本を読んで感想を書くことが苦手な児童にとっても、スモールステップで無理なく進められる利点がある。

② 伝記の本の選書と出合わせ方

本校にある伝記の本は200冊を超える。このうち、よく借りられている本が、学習漫画である。低学年から高学年まで幅広く借りられている。漫画は読みやすく、短時間で読み終わり、手軽に書かれている人物の足跡を知ることができる。本單元では、学習漫画の本は最初には読まないことにす

る。理由は、二つ。読みやすいがために、じっくりと自分と比べて読み進めにくいことと、絵のイメージに引きずられ、本物の人物像を描きにくいことである。ただし、巻末の資料は充実しているため、他の文章の本を読んだ後の補足に使用したい。本を読むことが苦手な児童へは、最初の10ページほど漫画になっていて人物に入りやすくしている本があるので、このシリーズを使用する。このシリーズには、人物の言葉が特集で書かれている。

学校図書館内にある本の中から机面上に取りだしておき（100冊程度）、児童がその中から自由に選ぶことにする。どの本を選ぶかは児童本人の興味・関心によるところが大きいが、本単元の最初に「レーダーチャート」（添付資料参照）を用い、自分に合いそうなジャンルの本を選ぶようにする。事前に机上の本をジャンル毎に担任が分けておく。

### ③ 友達との交流のための方法

単元の初め、「レーダーチャート」を参考にして本を選んだ時に、共通のジャンルの本を手にする児童同士でグルーピングしたい。理由は、共感しやすいからだ。例えばスポーツに関わる伝記の人物同士での共通点から、「けがで出場できなかったけれど、治して努力した」など同じような話をつなげて交流することなどが考えられる。

交流の方法は、「情報カード」を貼り合わせた画用紙を用いる。まず、できるだけ覚えた「言葉カード」の言葉を紹介する。そして、その背景にある人物の生き方考え方とそのどこを取り入れ、どのように活かしていきたいかをグループ内の人に聴いてもらう。聞く人は、自分が選んだ人物との共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりする。一人の紹介が終わったら、聞く人からもっと知りたいことを質問する。

紹介する児童にとっては、これからの人生に取り入れたいという考えを人に話すのは、恥ずかしいと感じることもあるであろう。なので、聞く人も批判する態度でなく、どんなに理想が高くても、反対に小さな思いでも発表する人を応援する気持ちで聞いてあげる雰囲気をつくりたい。

一通りグループ内の紹介が終わったら、じっくりカードを読み合い、全グループ内の紹介が終わったら、他のグループのカードを立てて見に行く時間を取る。カードを読み合う時には、大きめの付箋を置いておき、その中に感想を書いて裏面に貼ってあげる。この感想も励ます気持ちで書くように事前指導しておきたい。

## (2) 日常的な取り組みについて

### ① 毎日5分、伝記の読み聞かせ

伝記を読んで自分と比べることがほとんど初めてということをつまみ、本単元の前に『伊能忠敬・二宮金次郎』を担当が読み聞かせする。児童は、ほぼ毎日人物の生き方の読み聞かせを聞くことで、一人の人生の中で、不運だったところ、頑張ったところ、偉人と仰がれている理由などを感じ取っていく。読書が苦手な児童にとっても、人物の一生の中で、自分の生き方と重ね合わせることで興味・関心をもっていくことを期待する。読み聞かせ後は、読み聞かせの内容（そのまま・まとめ）と、自分ならこう思う（感想）を考える機会をもっている。

### ② 他教科、他単元における「情報カード」の利用

総合的な学習の時間において、「稲のピンチを救え」というテーマで調べ学習をした。その際に、「情報カード」を用いて、本やインターネットから引用した箇所、引用を受けてまとめた文章、まとめから考えたことや実際に行ったこと（キラキラテープを張る、本で調べた益虫を捕ってきて田んぼ放すなど）からの感想を書いてまとめた。このまとめは、発表の時の資料となった。また、国語の

「千年の釘にいどむ」では、釘職人以外の伝統工芸に携わる職人のこと知らせるポップ作りをするために、「情報カード」を用いて伝統工芸の本の内容を読み取った。「大造じいさんとガン」でも、「そのままカード」に作品のすぐれた表現を書き抜き、カードを吟味し、特にすぐれた表現だと思ふカードを場面ごとに選び、「感想カード」を書いたり、音読したりした。また、椋鳩十さんの他の作品の本を読み、その作品の魅力を文章に表したり、「大造じいさんとガン」と比べて作者の動物に対する思いをより深く知ったりする活動をした。

### ③ポップによる本の紹介

4月から学校図書館にある本をポップで紹介しあっている。自分のおすすめする本を短い言葉で紹介し、本の魅力を伝える活動である。友達のポップを読んで本を借りている児童もおり、日常的に本を薦め合う雰囲気がある。

本単元では、ポップという形はとらないが、「情報カード」を貼った画用紙に自分の生き方にどうとりいれたいのか短くまとめて書く紙を貼付することで、短い言葉で本を紹介してきたことを活かしていきたい。

### ④ 本から本、文章から文章へのつながりのための方法

学校図書館で学習することは、すぐに必要な本を手にとれるという利点がある。人物の言葉を探す活動に入ったときに、最初に読んでおいた伝記の中だけでは見つからないことも考えられる。そこで、学習漫画として最初に使わなかった本や、同じ伝記の人物で違う作者の本、本が無ければ、タブレットでインターネット検索するなどして目的に応じた資料集めができる。伝記で読んだ人物に関する本を複数利用することにより、学校図書館にあるたくさんの本に目的をもって調べられる良い機会でもある。総合的な学習の時間などで、本の検索にはポプラディア百科事典と川崎市オンラインシステム OPAC を使用している。

## 7. 本単元で育てたい情報活用の実践力

**【あつめる力】**「情報カード」を使い、自分の生き方や生活に活かしたい言葉や文章や、伝記の人物の主な足跡を集める。

**【あらわす力】**「情報カード」を利用して、伝記を自分の生き方に関わらせながら読み、取り入れたいことを書いたり、話したりして表現する。

8. 指導計画（8時間扱い）

次	時	評価規準	主な学習内容	学習活動ごとに育てたい【情報活用の実践力】☆手立て
第1次	1	【関】伝記の本を選び、人物の生き方に興味をもって読んでいく。	<p>「伝記を読んで生き方を考える」とは、どういうことだろう</p> <p>○伝記の本を選び、学習課題「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」の学習計画を立てる。（伝記を選び、自分の生き方に活かせるような所に付箋を貼りながら読み進める；並行読書）</p>	<p>☆P169「たいせつ」を読み、これまでの自分の生き方や考え方について振り返り、自分の生き方を考える学習であることを知らせる。</p> <p>☆自分に合った選書が出来るように、興味関心を書いた「レーダーチャート」を参考にさせ、ジャンル毎に本を分けておく。</p> <p>☆選んだ本の表紙か人物の顔のコピーをとっておく。</p>
第2次	2 3	<p>【言】文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。</p> <p>【読】文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかきだりしている。</p>	<p>「百年後のふるさとを守る」から伝記を読んで生き方を考えることについて知ろう。</p> <p>○「百年後のふるさとを守る」を読むことで、人物の生き方がその後、どのように活かされているのかを知る。</p> <p>○場面毎に要旨をまとめ、儀兵衛の考えのどういう所が東日本大震災で活かされているのかを考える。</p> <p>○儀兵衛から何を生き方に活かしているのか、本文に則しながら、自分の言葉でまとめる。</p>	<p>☆多くの人が当時学んだ「稲むらの火」の全文を学校図書館の本から紹介する。</p> <p>☆場面毎の読み取りで、場面の要点を押さえながら大事な所を落とさないように読めるように指導する。</p> <p>☆浜口儀兵衛の考え方から、現代に活かされている部分を押さえる。</p> <p>☆儀兵衛の考えから自分の考え方に取り入れたい事をノートに書かせるようにする。</p>
第3次	4 5 6	<p>【関】本を読んで、自分の生き方に活かすという目的をもって「情報カード」に書いていく。</p> <p>【読】目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み</p>	<p>「情報カード」を使って、伝記の本から自分の生き方に活かせるところを考えよう。</p> <p>○選んだ伝記を読み返し（付箋の所）、自分の生活に活かせるところか考えて取捨選択をする。</p> <p>○「そのままカード」に自分の生き方や生活に活かせる部分を引用する。（この時にこのカードに年表を抜粋してもよい。）</p> <p>○「そのままカード」を見ながら、「まとめカード」に、引用した部分を要約する。</p>	<p>☆伝記を読みつつ付箋を貼った、その付箋の箇所から本当に自分の生き方、考え方に活かせるかどうか吟味するように声をかける。</p> <p>☆たまった「情報カード」の中から、特に活かそうと思うカードを選び、一番上に貼るように指示する。</p> <p>☆静かに内省しながら作業できるように留意する。</p> <p>☆早く終わった児童には、関連する本があれば読んで考えを広げるようにアドバイスする。なければ、「そのままカード」に主な人物の足跡を年表から抜粋する</p>

<p>7 本 時</p>	<p>方を工夫している。</p> <p>【関】自分の生き方に取り入れたい所を選び、どのような時に活かしていきたいか考えている。</p>	<p>○人物から取り入れたい所を選び、どのような時などに活かしていきたいかを考える。</p> <p>○「まとめカード」を見ながら、自分だったらどのような時にその考えを取り入れるか具体的に「感想カード」に書く。</p> <p>○「感想カード」を見ながら、人物から取り入れたい言葉を一言で「言葉カード」に書く。</p> <p>○「言葉カード」の言葉を覚える。</p> <p>○取り入れたい生き方をもとに、ジャンルごとのコーナーの場で紹介しあう。</p> <p>○他のジャンルの画用紙も読む時間をもつ。</p>	<p>と人物のことをより深く知れることを告げる。</p> <p><b>【あつめる力】</b>「情報カード」を使い、自分の生き方や生活に活かしたい言葉や文章や、伝記の人物の主な足跡を集める。</p> <p>☆「まとめカード」に書いた内容を参考に、生き方にこれからどのように活かしていくのかを具体的に「感想カード」に書くようにさせる。</p> <p>☆書く活動を通して、自分の生き方をみつめ、伝記の人物から感じ取った考え方を自分の生き方に活かしていこうとしているか見取る。</p> <p>☆「言葉カード」は、この学習が終わっても心に残りやすくすることをねらって、短い言葉にしてペン書きするように指示する。</p> <p><b>【あらわす力】</b>「情報カード」を利用して、伝記を自分の生き方に関わらせながら読み、取り入れたいことを書いたり、話したりして表現する。</p> <p>☆ジャンル毎のグループに分かれて、言葉と活かし方の紹介・画用紙の交換読み、他のグループを巡って画用紙の読み合いなどの時間を決めて伝え、紹介しやすくする。</p> <p>☆友達の画用紙に興味をもったら、その伝記を読んでもみるとよいことを知らせ、以後も読むことを期待しつつ、時間の範囲内で複数の伝記に親しませる。</p>
----------------------	---	--	--

9. 本時の指導（7／8）

(1) 本時の目標 「情報カード」を利用して、伝記の人物から何を学び、自分の生き方や考え方にどのように活かしていきたいかを考える。

(2) 本時で育てたい情報活用の実践力

**【あらわす力】「情報カード」を利用して、伝記を自分の生き方に関わらせながら読み、取り入れたいことを書いて表現する。**

(3) 本時の展開

主な学習活動	学習活動ごとの育てたい【情報活用の実践力】☆手立て
<p>1. 二人組を作り、「情報カード」を見せながら、伝記の人物から学んでいることを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アインシュタインの「そのままカード」は、「人を動かすたった一つの方法は、自分からお手本を示すことです。」です。</li> </ul> <p>2. 二人組で伝え合った気づきから本時の学習課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足りないところは、何だろう。</li> <li>・もっと自分のことを書くところが足りないかな。</li> </ul> <p><b>自分の生き方考え方に活かしていきたい思いや言葉を考えよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄色い「感想カード」に、どんなことをどんな時に活かしたいかという自分の気持ちを書くのだな。</li> </ul> <p>3. 「感想カード」にと活かす場面を考えて「言葉カード」に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンネが寂しいときに美しい空や自然に触れることが一番と言っていたことを自分も寂しい時にはそうしてみようかな。</li> <li>・松井秀喜の「自分で必要だやった方がいいと思うから練習する」を自分も練習したいときには思い出してやってみようと思う。</li> </ul> <p>4. 「感想カード」を参考に短い言葉でまとめ、「言葉カード」に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山崎直子さんの「夢は持ち続けたら、夢は叶うよ」にしよう。</li> </ul> <p>5. 本時のふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「感想カード」に自分の生き方に活かしたい所や場面をじっくり見つけて書けた。</li> <li>・「言葉カード」に人物から学んだ言葉を一言で言い表せるように考えられた。</li> </ul>	<p>☆混乱の無いように、どの二人組かわかりやすく示す。</p> <p>☆「そのままカード」と「まとめカード」を伝え合う活動から、どんなことが足りないのか考えさせる。</p> <p>☆もっと、自分の生き方に取り入れたいことを考えるには、どうしたら良いか考えさせる。伝え合ったときに、カードに書いていないことで伝えたいことはなかったかをヒントにするとよいことを告げる。</p> <p>☆「感想カード」に、何をどんな時に活かしていきたいかを書くことを周知できるように課題を確認する。</p> <p>☆「感想カード」の記述が進まない児童には、「そのままカード」と「まとめカード」を読み直して、一番活かしたいところを選んで、どのようなときに活かそうかを書くことよいことをアドバイスする。</p> <p>☆早く終わった児童は、本を読んでカードを増やしたり、机にある本を読んだりしてよいことを告げる。（他の人の伝記を読んで活かしたい言葉を書きたい時には、「そのままカード」を使用してもよいことにする）</p> <p>☆全員の児童が「感想カード」を書けた（書けそうな）時に、次のカードの説明をする。</p> <p>☆言葉を選んだり覚えたりする意義と次時の交流の仕方を簡単に話す。</p> <p>☆一人ひとりの選んだ言葉を見て、覚えられる分量の言葉にするように声をかける。</p>



・次時に「言葉カード」の言葉と「感想カード」の内容を伝える準備ができた。

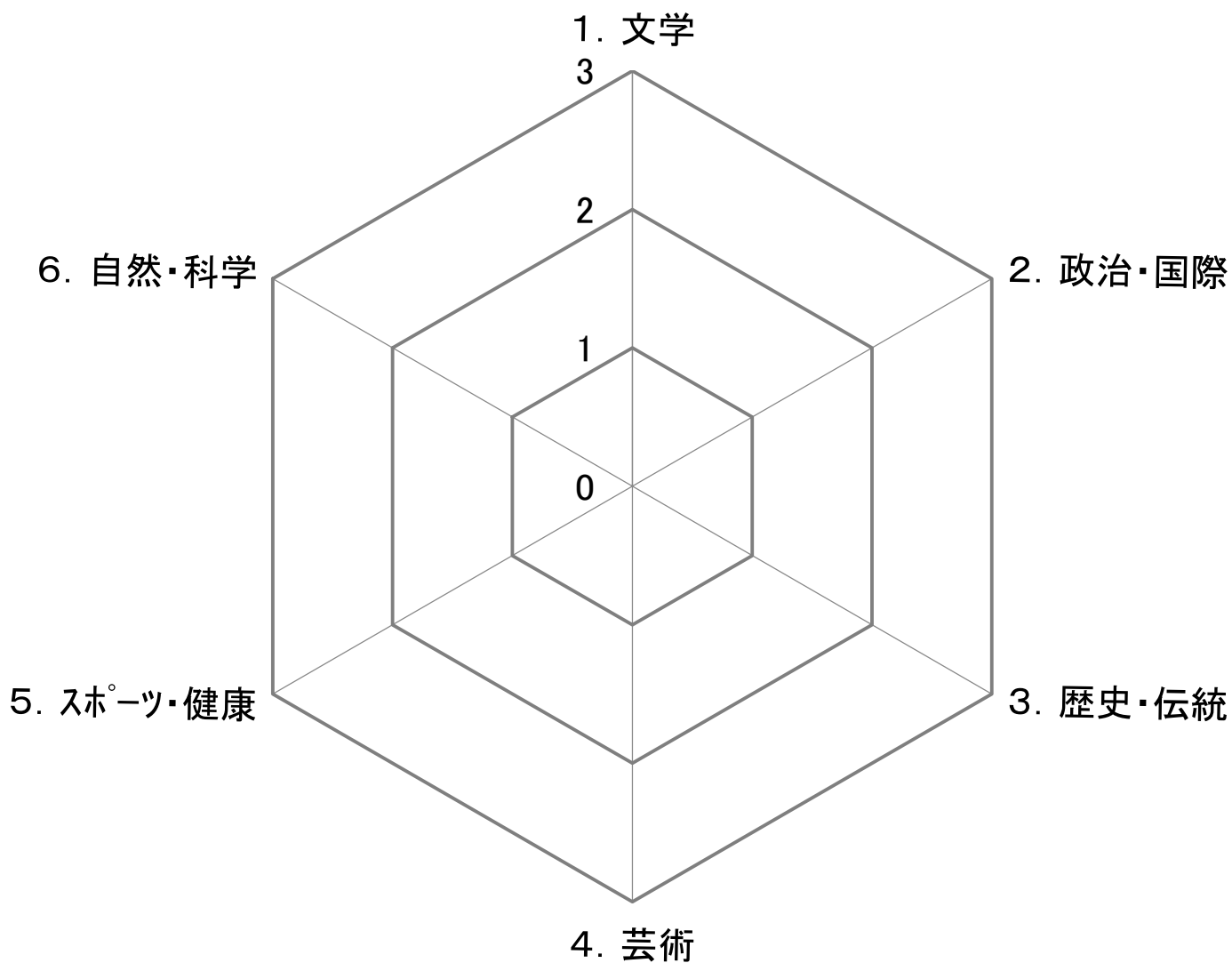
**【あらわす力】**「情報カード」を利用して、伝記を自分の生き方に関わらせながら読み、取り入れたいことを書いて表現する。

☆時間があれば本時の振り返り内容を数人に感想を聞き、クラス全体の雰囲気をつなぐ。

☆次時は、他のジャンルの偉人の生き方も知ることができる良さがあることを告げる。

評価規準 **【関】** 自分の生き方に取り入れたい所を選び、どのような時に活かしていきたいか考えている。

5- ( )



自分に合いそうな伝記のジャンルは、

自分が選んだ伝記の本は、

本との出会いを大切に。その1つつが、  
あなたの生き方を変える…かもしれない。

# 伝記を読もう

～自分に合うジャンルをさがそう～

つぎ 次のアンケートに答え、あてはまるものに○をつけよう。

○の数の合計を出し、右ページのレーダーチャートに表そう。

1. 文学に関すること		
①読書が好きで、本をよく読む。	( )	
②文章を書くのが好き。	( )	
③将来、作家や物を書く仕事につきたい。	( )	点
2. 政治・国際に関係すること		
①ニュースや世の中のできごとに興味がある。	( )	
②英語やコンピュータが好き。	( )	
③将来、世界の人に役立つ仕事につきたい。	( )	点
3. 歴史・伝統文化に関すること		
①歴史に興味があり、尊敬する人物がいる。	( )	
②有名なお寺や神社、遺跡を見るのが好き。	( )	
③その土地に伝わる風習や祭に興味がある。	( )	点
4. 芸術に関すること		
①工作や物を作るのが好き。	( )	
②色ぬりや絵をかくのが好き。	( )	
③歌ったり、楽器を演奏したりするのが好き。	( )	点
5. スポーツ・健康に関すること		
①体を動かすのが好き。	( )	
②体のことや、健康に興味がある。	( )	
③将来、スポーツ選手になりたい。	( )	点
6. 自然・科学に関すること		
①動物や植物を育てたり観察するのが好き。	( )	
②星や月が好きで、星座をよく知っている。	( )	
③日本や世界の環境問題に興味がある。	( )	点

「情報カード」(本単元用)

水色

--	--	--	--	--	--

「そのままカード」

緑色

--	--	--	--	--	--

「アセスメントカード」

黄色

--	--	--	--	--	--

「感想カード」

白色

（	人物の生きた年	著者	出版社	書名
年	）			」
年	才			」

赤色

	言葉カード
--	-------

自然・科学		歴史・伝統		政治・国際・経済	
⑩アインシュタイン	⑪ダーウイン	⑦織田信長	④坂本龍馬	⑩アンホフランク	
⑨南方熊楠	⑧キユリー夫人	①マザーテレサ	⑩徳川家康	⑩本田宗一郎	⑩ユージンスミス
⑩エンジン	⑤フエーガル		⑩上杉謙信	⑩杉原千敏	
⑩メツシ	⑩中村憲剛	⑩ベートーベン	⑨モーツァルト		⑥与謝野晶子
⑩ナイチンゲール	⑩松井秀喜	⑩辻口博啓	⑩シューベルト	⑩宮沢賢治	⑩樋口一葉
⑩中村俊輔	⑩内海哲也	⑩辻井伸行	②オーボリー・ヘツグバベン	⑩手塚治虫	

スポーツ・健康・医療

芸術

文学

座席と伝記  
○内の数字は出席  
番号